

**災害用備蓄品
比の姉妹校に
セントヨゼフ女子
学園生が発送準備**

セントヨゼフ女子学園(津市半田)の生徒たちが、災害への備えの大切さを世界に広めようと十二日、フィリピンの姉妹校、ウッドローズ校に備蓄品を送る準備をした。

同学園は、賞味期限が五年の缶詰パンや水といった非常食のほか、簡易トイレなどが入った災害用備蓄品「白い小箱」を三年間保管。販売元の一般社



住所の記入や備蓄品の箱詰めを行う生徒ら＝津市半田のセントヨゼフ女子学園で

団法人「日本非常食推進機構」(四日市市)は、保管期間を終えた備蓄品を有効活用するため、国内の児童養護施設や福祉施設、海外

に送る活動を広めている。

同機構によると、フィリピンには災害用の備蓄品を保管する習慣がないという。この日は中学二、三年生の十二人が、保管期間の三年を過ぎた六百個の白い小箱を、英語で住所を書いた段ボール箱に詰めた。

二年の山崎千寿さん(二毛)は「姉妹校として交流をする中で、フィリピンの貧困について学んできた。いざというときに使ってほしい」と話した。

(須江政仁)